



尾久西だより

荒川区立尾久西小学校
発行日 令和2年10月1日
発行者 校長 芝田智昭

No. 353 10月号

小学校の思い出

昨日まで秋の全国交通安全運動が行われていました。登校時には、警察の方とともに町会を中心とした地域の方々が路上に立ち、子どもたちの安全を見守ってくれました。保護者・地域のみなさまの力強い支えを改めて実感しました。ありがとうございます。

さて、表題は私の思い出ではなく子どもたちにとっての小学校の思い出です。6年生は、先週の金曜日の夕方から夜にかけて、そして翌土曜日の午前中に、学校を舞台にしてスポーツやゲームなどで楽しいひと時を過ごしました。これは、移動教室や連合運動会などをはじめとする行事ができなくなった代わりに、思い出に残る時間をプレゼントしたいと考え企画したものです。当日までの計画や準備を含め、未体験のことを全員で共有するワクワク感は、きっと心に残ったことでしょう。

小学校の思い出が綴られるのが卒業文集です。一人ひとりが自分のこれまでを振り返り、最も印象深いものを記します。私は高学年の担任が多かったので、卒業文集にかかわる機会も多くありました。その際子どもたちには、テーマとしては「思い出」「将来の夢」「感謝」「決意」があり、その中の一つを取り上げてよいしテーマを組み合わせてもよいと伝えていました。「思い出」を選ぶ子が最も多く、中でも移動教室や運動会などのイベントが圧倒的でした。そこまでにたどり着くプロセスや当日に現地で友達と一緒に経験することは、深く心に刻まれるからでしょう。

一方、私は担任時代、「思い出」として、「あのときの授業が忘れられない。」「あの授業でのやりとりが今につながっている。」などと書いてくれる子はいないかなあ、と、ずっと期待していました。行事やそれに関連する取組は特別な時間であり、授業こそ子どもたちを成長させるものだと考えていたからです。しかし、力不足のため希望を叶えることなく担任を離れてしまいました。今でも同じ思いをもっているのです。担任とこのことを話したり毎年6年生が書く卒業文集を期待して読んだりしています。

どんな思い出を残してあげられるかは、学校が大きな責任を負っていると考えています。行事にしろ授業にしろ、子どもの成長を促進し将来につながる時間になるよう、引き続き努めてまいります。残り半年、保護者・地域のみなさまのご理解とご支援を引き続きよろしく願いいたします。